

アジア産キイチゴ属の分類学的ノート(1): ツクシ アキツルイチゴと中国の*Rubus tsangorus*

著者	鳴橋 直弘
著者別表示	Naruhashi Naohiro
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	55
号	2
ページ	103-106
発行年	2007-12-30
URL	http://doi.org/10.24517/00053370



鳴橋直弘：アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (1) ツクシアキツルイチゴと中国の *Rubus tsangorus*

Naohiro Naruhashi : Taxonomical notes on Asiatic *Rubus* (Rosaceae) (1) *Rubus hatsushimae* and *R. tsangorus*

ツクシアキツルイチゴ (*Rubus hatsushimae* Koidz.) は小泉源一先生が 1932 年に植物分類, 地理第 1 巻 17 頁に記載発表 (Koidzumi 1932) した植物で, ホロタイプは京都大学総合博物館 (KYO) にある。産地は長崎県島原市眉山で, 採集者は初島住彦先生である。筆者はツクシアキツルイチゴを求めて現地を 1967 年 5 月 28 日をはじめ, 1968 年 11 月 4 日, 1971 年 4 月 7 日, 2006 年 11 月 12 日, と計 4 度訪れたが, いずれも目当ての植物を見つけることができなかった。

この植物は, 初島住彦先生によって眉山で 2 回採集されている。1 回目は 1928 年 8 月で, 作成された標本は 1 点のみで京都大学総合博物館が所蔵, これがホロタイプで他にアイソタイプ等の重複標本は発見されていない。2 回目は 1932 年 8 月 12 日で, この時作成された標本は 4 点であり, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) に 3 点, 長崎大学環境科学部に 1 点保管されている。その後, 日本では誰もこの植物を採集していない。それ故, この植物は, 『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物 I』(環境庁自然保護局野生生物課 2000) では絶滅危惧 I A 類 (CR) で, ‘レッドリストでは情報不足とされたが, 自生地で確認できず, 絶滅した可能性がある’, と記されている。その後の環境省版レッドリスト (環境省自然環境局野生生物課 2007) では絶滅 (EX) に変更されている。また, 『ながさきの希少な野生動植物』(長崎県県民生活環境部自然保護課 2001) でも絶滅となっている。

京都大学のホロタイプは植物体がやや小さく, 花の数も少なく, 良い標本とは言えない (Fig. 1, A and B)。2 回目に採集された鹿児島大学の標本は, 大きくりっぱな良い標本である (Fig. 1, C and D)。

本種が中国産の *R. amphidasys* Focke ex Diels に似ていることは, 初山 (1989) 氏が図鑑の中で触れている。筆者 (Naruhashi 2001) も “Flora of Japan II b” の中 (cf. p. 145 fn) で, この植物が *R. amphidasys* と同じものと思っていたのである。また, 遡ること 1984 年に, ウィーン自然史博物館 (W) で標本を見た時は, *R. amphidasys* と *R. tsangorus* Hand.-Mazz. も同じものではないかと思っていた。また, *R. amphidasys* は 1901 年の発表なので, *R. hatsushimae* はシノニムになると思っていた。

2005~6 年にアメリカのハーバード大学 (GH) より多数の中国産のキイチゴ属の標本を借りることができ, それらを検討した結果, *R. amphidasys* と *R. tsangorus* は違う種であること, そして *R. hatsushimae* は *R. tsangorus* (Fig. 2, A~D) と同じものであるとの結論に達した。2006 年 6 月に鹿児島大学総合研究博物館を訪れた折の, タイプ地で採集された標本の観察が, この結論に達するために, 大いに役に立った。ちなみに, *R. amphidasys* の葉は卵形から狭卵形で, 葉柄や花柄の腺毛は 3~4 mm であるのに対して, *R. tsangorus* の葉は円形から広卵形で, 葉柄や花柄の腺毛は 2 mm 以下である。中国での *R. tsangorus* の分布は東南部の台湾に近い地域 (Lu 1985; Lu and Boufford 2003; Lu and Gu 2003) である。

Rubus tsangorus は Handel-Mazzetti (1933) が Symbolae Sinicae (1929-1936) に記載発表した種であるが, 第 7 巻 485 頁の発表年は 1933 年である。小泉先生の *R. hatsushimae* は 1932 年で Handel-Mazzetti よりも 1 年前なので, この学名が正名となり, *R. tsangorus* がシノニムとなる。よって, 学名を以下のように整理した。

貴重な標本を貸与くださったハーバード大学の Emily Wood 氏, 標本の閲覧を許可くださったウィーン自然史博物館の Harald Riedl 氏, 京都大学の永益英敏氏, 鹿児島大学の落合雪野氏, 長崎大学の中西弘樹氏, および現地をご案内くださったシマバライチゴを守る会の山田スミコ氏と内田 豊氏に, この場を借りてお礼申し上げる。

Rubus hatsushimae Koidz. in Acta Phytotax. Geobot. 1: 17 (1932), “*hatsushimai*”
= *R. tsangorus* Hand.-Mazz., Symbolae Sinicae 7: 485 (1932), “*tsangorum*” **syn. nov.**

Japanese name: Tsukushi-aki-tsuru-ichigo

Chinese name: Dong nan xuan gou zi

Holotype: Mt. Mayuyama, Shimabara-shi, Nagasaki Pref., Japan, Sumihiko Hatusima s.n., Aug. 1928 (KYO)

Note: There is no other type specimen of *R. hatsushimae* except for the holotype. No collectors botan-

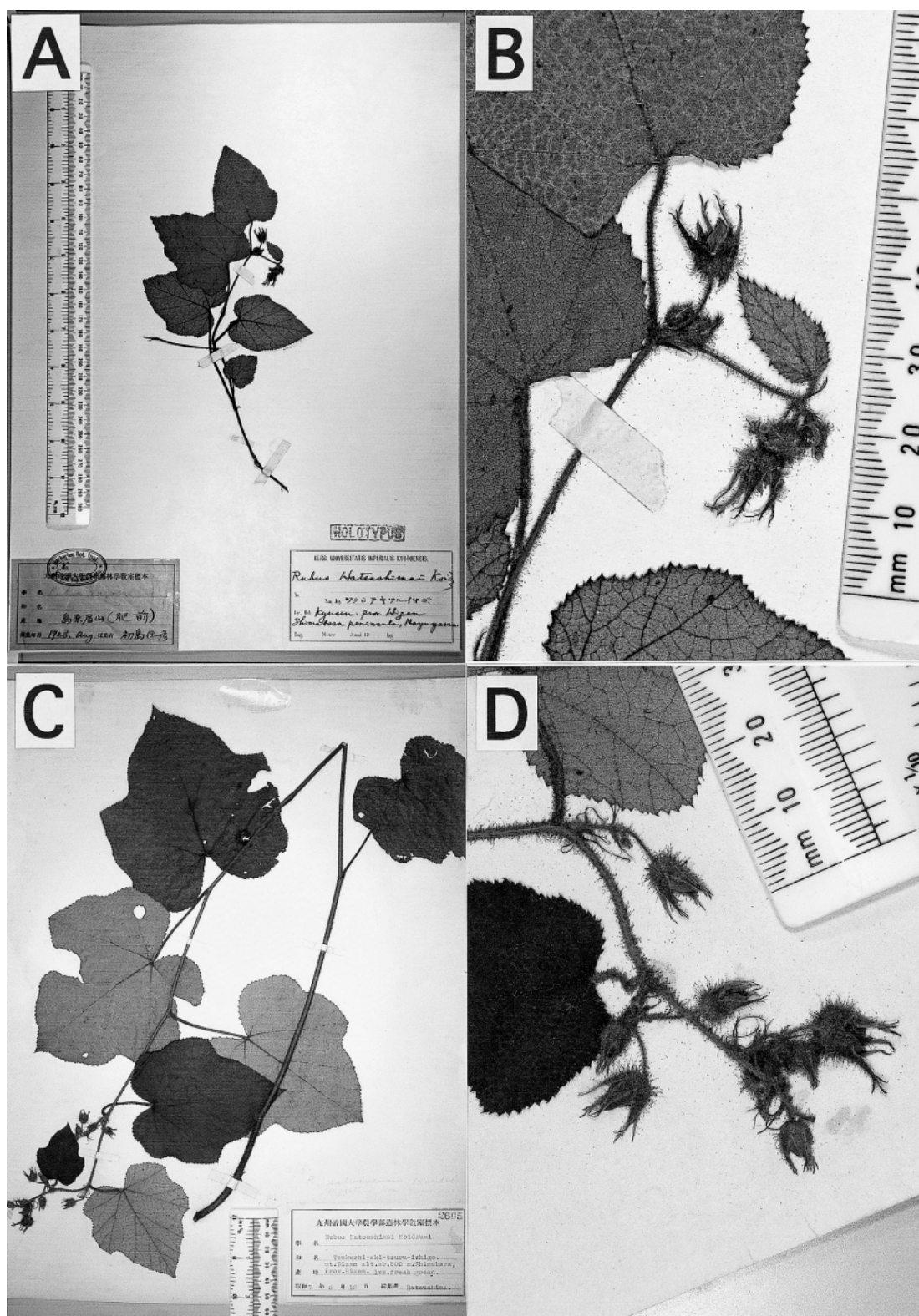


Fig. 1. *Rubus hatsushimae*. A and B: Holotype specimen, first collection by Dr. Hatusima in Shimabara, Japan, deposited in Kyoto University (KYO). C and D: Second collection by Dr. Hatusima in the same place, deposited in Kagoshima University (KAG).

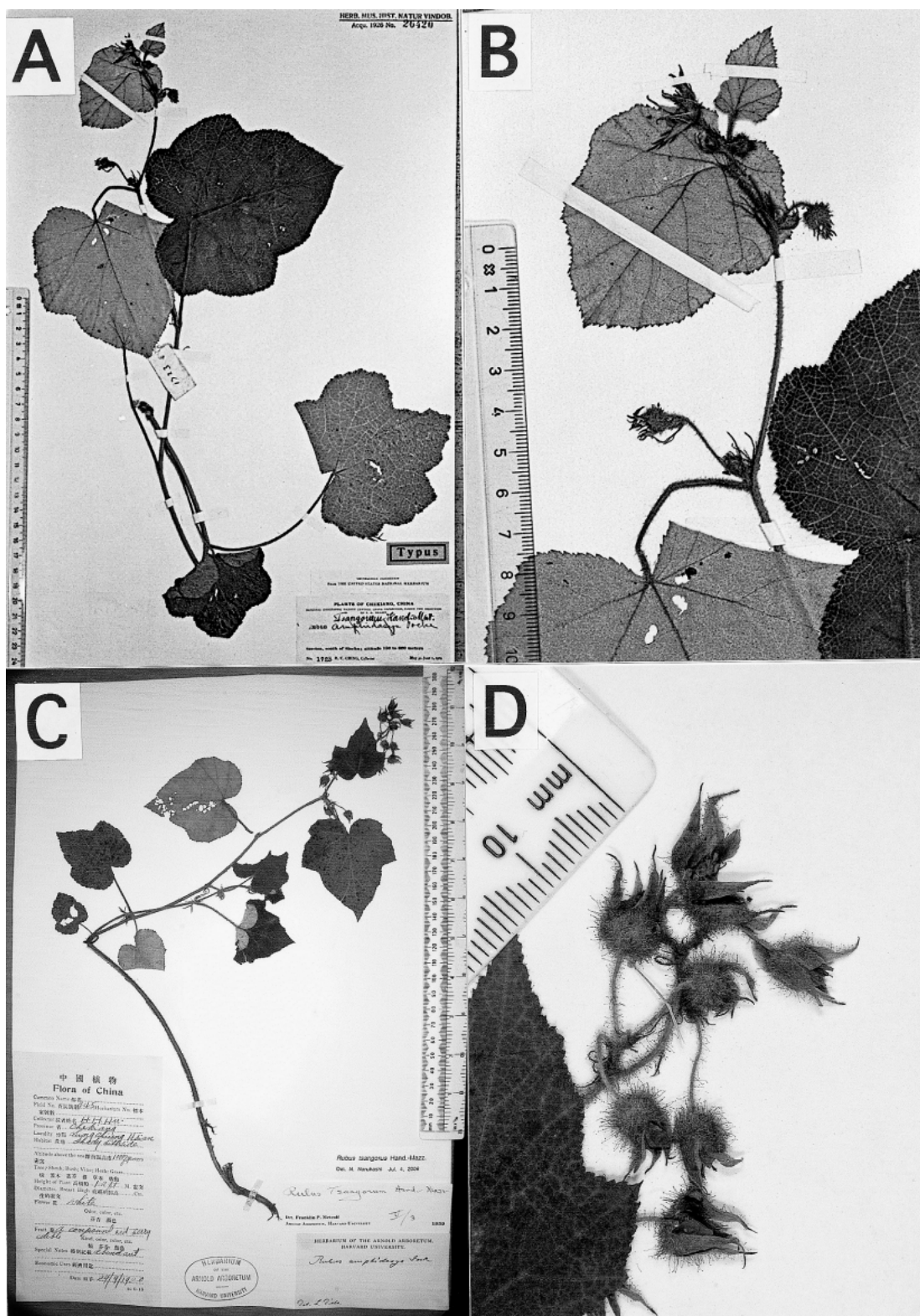


Fig. 2. *Rubus tsangorus*. A and B: Holotype specimen collected by R. C. Ching in Chekiang (Zhejiang sheng), China, deposited in Natural History Museum of Wien (W). C and D: Specimen collected by H.-H. Hu in Chekiang, China, deposited in Harvard University (GH).

ized at the place where Prof. Emerit. Dr. S. Hatusima collected. Important characters treating *R. hatsushimae* and *R. tsangorus* as one species without discrimination are leaf shape and indumentum or covering of petioles, peduncles, calyces, etc. The present species occurs in south-east part of China, a likely finding in Japan might be an accidental introduction by birds, and is comparable to the straying of butterflies by strong wind. The epithet of the species, *hatsushimae*, commemorates the collector, Sumihiko Hatusima.

引用文献

- Handel-Mazzetti, H. 1933. *Symbolae Sinicae*. Botanische Ergebnisse der Expedition der Akademie der Wissenschaften in Wien nach Südwest-China 1914/1918, vol. 7 Anthophyta. pp. 485-486. Julius Springer, Wien.
- 環境省自然環境局野生生物課 (編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物 I (維管束植物). p. 123. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課 (編). 2007. レッドリスト (植物 I) 維管束植物. 28 pp. 環境省, 東京.
- Koidzumi, G. 1932. Contributiones ad cognitionem Florae Asiae Orientalis. *Acta Phytotax. Geobot.* 1: 11-33.
- Lu, Lingdi. 1985. *Rubus* L. Yü, Te-tsun (ed.). *Flora Reipublicae Popularis Sinicae* Tom. 37, pp. 10-218. Science Press, Beijing. (in Chinese)
- Lu, Lingdi and Boufford, D. E. 2003. *Rubus* Linnaeus. Wu, Zhengyi, Raven, P. H. and Hong, Deyuan (eds.). *Flora of China* vol. 9. Pittosporaceae through Connaraceae, pp. 195-286. Science Press, Beijing.
- Lu, Lingdi and Gu, Cuizhi. 2003. Fu, Likuo and Hong, Tao (eds.). *Higher plants of China* vol. 6, pp. 582-646. Qingdao Publishing House, Qingdao.
- 糴山泰一. 1989. キイチゴ属. 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). *日本の野生植物 木本 I*, pp. 204-215, pls. 224-239. 平凡社, 東京.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課. 2001. ながさきの希少な野生動植物—レッドデータブック 2001—. p. 53. 長崎県県民生活環境部自然保護課, 長崎.
- Naruhashi, N. 2001. *Rubus* L. Iwatsuki, K., Boufford, D.E. and Ohba, H. (eds.). *Flora of Japan* IIb. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae (b), pp. 145-169. Kodansha, Tokyo.
- (〒591-8022 大阪府堺市北区金岡町 1046-1 Kanaoka-cho 1046-1, Kita-ku, Sakai 591-8022, Japan)